



2025年6月27日号

Well-being サードシーズン

幸せを見つける力をつけよう

校長 大地本央仁

Well-being

持続的な幸せを求めて

「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」

学校教育目標の達成に向けて、持続的な幸せを求めた「Well-being」を掲げさせていただいてから3年目となりました。

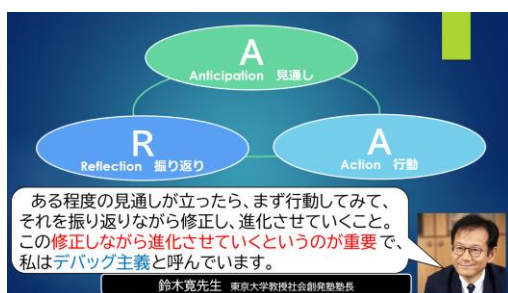
この「Well-being」になるための4つの因子は、「幸福」という観点から、まちづくりへの提言を行っている日本における「幸福学（well-being study）」研究の第一人者、慶應義塾大学大学院 教授の前野 隆司氏の研究の成果です。本校の図書館には、前野教授の奥様で「誰もが幸せに生きる社会を創りたい」と夫の前野教授と一緒に研究をしていらっしゃるEVOIL株式会社代表取締役CEOの前野マドカ氏の著書「君だけの幸せって何だろう」があります。

本年度は、その著書を参考に「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのまま」を整理しなおしてみました。いままでより分かりやすい言葉になっているのではないかと思います。



やってみよう	ありがとう	ありのまま	なんとかなる
夢・目標、強み、成長、自己肯定感	感謝、利他、許容、承認、信頼、尊敬、自己有用感	独立、自分らしさ	前向き、楽観性、自己受容
本当になりたい自分を目指してワクワクすることをたくさん探し、目標を達成させる。	多様な人とつながりを持ち、当たり前だと思っていた日々の中に感謝の種を見つける。	人と自分の比較ばかりにとらわれず、自分の中から沸き起こる「変わりたい」を原動力に、自分が生きる上で大切にしているものを探す。	自分を受け入れ、必要以上に挑戦を恐れることなく前向きに行動に踏み出す。正解よりチャレンジ。

Well-being では、誰かの「幸せ」のために誰かが「不幸せ」になったり、一瞬の「幸せ」のために何かが犠牲になったりすることは想定されていません。



子どもたちが自分や周りのみんなの幸福を自分でつかみ取れるようになってほしいと思っています。もちろん、本校で働く職員も保護者の皆様も地域の方々も一緒に幸福になれることがねらいです。

チャレンジをすれば、当然うまくいかないこともあります。挑戦しなければ成功ありません。左図のようにAARサイクルを回し「うまく

いかなくても再チャレンジできる」そんな風土になるとうれしいです。

ここで重ねてのお願いです。子どもたちの幸せのためによりよい教育を行うことができる教育環境をつくるために働き方改革を進めていきます。教育環境のひとつである学校職員の健康や資質を維持・向上するための時間を作り、学校の質を上げていくことは大変重要であると考え、PTA総会でもお願いをし、ご承認いただきました。

今年度よりコミュニティースクールとなります。学校運営協議会で熟議を重ね、今後も、地域の子どもたちを協働して育んでいけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

学校の働き方改革について

島根県教職員の「働き方改革挑戦校」
江津市小中学校働き方改革推進委員会

◆子供たちに対してよりよい教育を行うことができるようにする

◆新しい知識・技能を学び続け、質の高い教職員集団の実現

学校の働き方改革について

社会と学校とで役割分担

時間を作る

職員の心身の健康（生徒と向き合う）
学校の質を上げる（授業改善）